



たまらない感情になる瞬間！！

鬼柳 琴

Koto Oniyanagi

岩手医科大学付属病院 看護師

▼「わいっ子」～わたしがメンバーの頃～

今までの人生で誇れることは何だろう？どの位あるだろう？まだまだ未熟者の私ですが考えてみました。一生付き合うだろう友達ができたこと？はたまた…。いざ考えてみるとあまり思いつきませんでした。だけど即答できることがあります。それは、「わいっ子」ということです。「わいっ子」とは、「子どもの頃YMCAの活動に参加していた人」と勝手に定義付けさせていただきます。

私は小学2年生の時に盛岡YMCAと出会いました。きっかけは近所のお友達に誘われたからだったと思います。そして日常とかけ離れた環境で遊べ、優しくユーモラスなリーダーたちに会えるYMCAにどんどんはまって行きました。大好きなYMCAの活動の中でも特に思い出に残っているのが、りんご園に泊まるキャンプです。風を感じながら軽トラックの荷台に乗り、田んぼへ行きそこで泥だらけになりながら遊んだり、平屋建ての家の窓からリーダーに手伝ってもらいながら屋根に上り星を見たり…。

また、手作りの五右衛門風呂にキャッキヤ言いながら入ったこと、リーダーが火をおこして作った焼きリンゴが美味しかったなあ、ポットトイレは臭くて虫がいて嫌だったなあ、そんなことまで覚えています。今でも私は、満天の星空、五右衛門風呂、焼きリンゴを見るとキャンプを思い出します。



中央でピースをしているのがご本人

子どもの頃はよそへ出ると基本的にいい子ちゃんだった私が、リーダーの顔に油性ペンで落書きをしたり、キャンプで友達になった子と「足が滑った」と言いながらリーダーにキックをしてちょっかいをかけたり、ありのまま、それ以上に子どもらしくいられたのがYMCAで、経験や感じたことは財産だと思っています。私は仲間のリーダーたちから「マックはわいっ子なんだよね、いいなあ。」言われることが度々ありました。そんな時私は満面の笑みで誇らしげに答えるのです。「いいでしょ！！」って。

▼「かけがえのない場所」～わたしのリーダー時代～

上手く表現することが出来ないけれど、胸の奥から、からだ中に凄く尊いものが湧いてくる、そんなたまらい感情になる瞬間がYMCAの活動に来ているとありました。楽しいとか嬉しいとかそういう感情とも少し違う感情です。それは、子どもが発した一言だったり、グループで過ごしたテントの中のひと時だったり、歌を歌いながら下った山道だったり。その説明の仕様がないう感情が、その瞬間が、私は大好きでした。

私は、リーダーとして3年間YMCAで活動しました。最初は、授業や実習で多忙になることから、2年生で一区切りつけなければならぬと自分の中で考えていましたが、3年目を迎える卒業の年度もサマーキャンプに燃え、月1回の野外活動も11月まで行っていました。私にとってYMCAは離れたくない場所になっていたのです。

「マックが好きなようにやっていいよ。だけどやるからには責任を持ってね」と自分では気付くことが出来ない、あるいは向き合っていなかった自分と向き合うきっかけをたくさん与えてくれたスタッフ。

私が1年生の頃しつこい位声をかけてくれ、私を引き出してくれたり、「一人でやってみなよ。大丈夫。」と背中を押してくれた先輩リーダー。そして、悩んだり、悔しい思いをしたり、悲しい時も、楽しい時も最高な時もいつも一緒にいてくれたリーダーの仲間たち。そんなYMCAがみんな、みんな大好きです。私は社会人となりましたが、これまでYMCAで感じたこと、学んだことをこれからもとても、大切にして生きていきたいと思っています。



リーダー時代の鬼柳さん

Profile



- ・1996年岩手県大船渡市生まれ。
- ・2018年岩手看護短期大学卒業。
- ・小学生時代は、盛岡YMCA野外活動クラブ「アドベンチャークラブ」のメンバー。
- ・学生時代3年間は、ボランティアリーダーとして、キャンプ、定例野外活動、東日本大震災被災地復興支援活動、国際協力募金、バザー、チャリティーランなど、様々活動で活躍。
- ・リーダー名（ニックネーム）は、マック。

【取材：盛岡YMCA 総主事 濱塚有史】